

限られた人材の中で、 効果的なHIV感染症の看護支援体制を考える

長期療養時代を迎え複数の慢性疾患コントロールや高齢化対策を要するようになったHIV陽性者には、将来を見据え居住する生活圏内で不安なく安心して医療継続ができるように医療福祉を含む療養支援体制を構築することが求められています。

今回のセミナーでは、看護師の人材確保に課題のある中、途切れることのない支援を行うための工夫や横断的支援の関わりを振り返り、看護師の役割や人材活用について学ぶことを目的としています。

(日本エイズ学会認定制度の教育研修 3単位 申請中)

日時： **2024年12月18日(水)**

2024年12月3日締切

18時00分～19時30分(90分)

対象： HIV感染症看護に携わっている看護職

参加形式： ハイブリッド

ZOOMミーティングによるライブ配信(250名)

国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院 中央棟1階 集団指導室(20名)

申込URL： <https://forms.office.com/r/y6UbBtBWWW> 事前申し込み



※ACCのホームページからも
お申し込みいただけます

総合司会 戸蒔 祐子 (慶応義塾大学病院 感染症外来 HIV感染症専任看護師)
新保 明日香 (新潟大学医歯学総合病院 看護部 感染管理部 副看護師長)

【プログラム】

- 18:00～18:10 開催挨拶
湯永 博之 (国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター センター長)
- 18:10～18:40 教育講演
武田 飛呂城 (社会福祉法人はばたき福祉事業団 理事長)
「HIV感染症がコントロールできるようになった今、新たに看護師に求められるものは？」
- 18:40～19:00 事例提供
松浦 美和 (獨協医科大学病院 看護師長)
「HIV陽性者への途切れない支援の工夫」～看護師がつかない横断的支援の関わりを振り返る～
- 19:05～19:25 ディスカッション：「看護師の役割や人材活用について」
- 19:25～19:30 閉会挨拶
大金 美和 (国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター 患者支援調整職)

主催：厚生労働行政推進調査事業費補助金(エイズ対策政策研究事業) HIV感染症の医療体制整備に関する研究

研究代表：湯永博之(国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター長)

研究分担者：大金美和(国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター 患者支援調整職)

「ブロック内中核拠点病院間における相互交流によるHIV診療環境の相互評価とMSWと協働による要介護・要支援者に対する療養支援のネットワーク構築」

協力：関東甲信越ブロックHIV治療中核拠点病院のHIV感染症看護師12名

後援：茨城県 栃木県 群馬県 千葉県 東京都 神奈川県 山梨県 長野県